

18. 献血

少子高齢化の進行に伴う献血可能人口の減少や若年層の献血離れ等の影響もあり、献血者数は全国的に減少傾向にある。

また、輸血用血液製剤については国内の献血により供給されているが、アルブミン製剤など血漿分画製剤の原料においては、いまだに多くを外国からの輸入に依存している状況である。

これらのことから、血液製剤の安全性の向上、献血による国内自給の原則、適正使用の推進、血液事業運営に係る公正の確保と透明性の向上を基本理念とした「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が平成15年7月に施行された。

この法律に基づき、「県内の医療機関で必要な血液は県民からの善意の献血で賄う」を合い言葉に、高知県赤十字血液センター、市町村、民間ボランティア等と連携し、若年層をはじめとする県民各層への献血の普及・啓発活動を行うとともに、地域での献血組織の育成強化を図る。

(1) 献血者数

令和2年度の献血者数は29,427人であり前年度より8.4%増となった。

また、献血量は13,291リットルであり前年度より10.2%増えるとともに、過去10年間で最も多い結果となった。

なお、過去10年間の献血者数及び献血量は下記のとおりである。



	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	対前年比	構成比	R2年度目標値
200mL献血(人)	5,592	2,428	1,082	1,026	1,069	1,146	991	458	404	493	122.0%	1.7%	420
400mL献血(人)	22,491	23,046	23,952	22,869	22,308	20,904	19,394	18,632	18,542	19,227	103.7%	65.3%	18,954
成分献血(人)	9,434	8,371	8,558	7,088	7,278	7,657	7,137	7,842	8,203	9,707	118.3%	33.0%	9,847
計(人)	37,517	33,845	33,592	30,983	30,655	29,707	27,522	26,932	27,149	29,427	108.4%		29,221
献血量(リットル)	12,730	11,920	12,173	11,318	11,003	11,891	10,954	11,022	12,065	13,291	110.2%		12,952

(2) 献血適格率等の状況

令和2年度の献血申込者のうち献血ができなかった人数は、2,336人で、申込者のうち7.4%を占めた。

特に、血液比重が不足する献血申込者については、男性0.9%に対して女性9.1%と大幅に女性が多くなっているが、これは男女による赤血球数の違いの影響が大きい。

令和2年度中の献血申込者数と献血ができなかった人数

区分	申込者数 (人)	献血できなかった人数(人)						献血者数 (人)		
		比重不足		その他		計		構成割合 (%)	構成割合 (%)	
			構成割合 (%)		構成割合 (%)		構成割合 (%)			
男	200mL献血	54	0	0.0	2	3.7	2	3.7	52	96.3
	400mL献血	13,923	141	1.0	496	3.6	637	4.6	13,286	95.4
	血しょう成分献血	4,927	31	0.6	84	1.7	115	2.3	4,812	97.7
	血小板成分献血	1,912	15	0.8	61	3.2	76	4.0	1,836	96.0
	計	20,816	187	0.9	643	3.1	830	4.0	19,986	96.0
女	200mL献血	533	42	7.9	50	9.4	92	17.3	441	82.7
	400mL献血	7,146	847	11.9	358	5.0	1,205	16.9	5,941	83.1
	血しょう成分献血	3,085	104	3.4	94	3.0	198	6.4	2,887	93.6
	血小板成分献血	183	5	2.7	6	3.3	11	6.0	172	94.0
	計	10,947	998	9.1	508	4.6	1,506	13.8	9,441	86.2
合計	200mL献血	587	42	7.2	52	8.9	94	16.0	493	84.0
	400mL献血	21,069	988	4.7	854	4.1	1,842	8.7	19,227	91.3
	血しょう成分献血	8,012	135	1.7	178	2.2	313	3.9	7,699	96.1
	血小板成分献血	2,095	20	1.0	67	3.2	87	4.2	2,008	95.8
	計	31,763	1,185	3.7	1,151	3.6	2,336	7.4	29,427	92.6

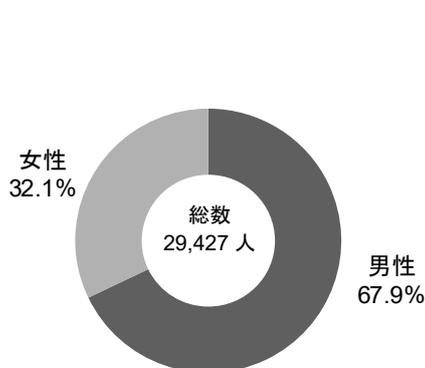
(3)性別・年代別からみた献血者の状況

献血者の性別構成では、男性が19,986人(67.9%)、女性が9,441人(32.1%)であった。

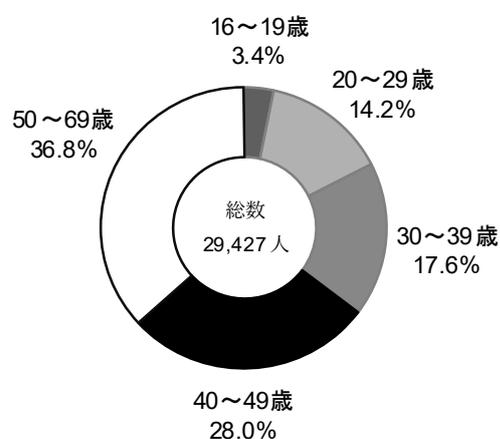
また、年代別では、50-60歳代が最も多く、次いで40歳代、30歳代、20歳代、10歳代の順となっている。

令和2年度 性別・年代別献血者数

	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～69歳		合計		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
200 mL	35	183	6	95	1	36	8	66	2	61	52	441	493
400 mL	395	245	1,941	952	2,407	1,022	3,665	1,596	4,878	2,126	13,286	5,941	19,227
血漿	60	70	420	576	665	675	1,365	783	2,302	783	4,812	2,887	7,699
血小板	13	1	164	19	313	61	691	78	655	13	1,836	172	2,008
合計	503	499	2,531	1,642	3,386	1,794	5,729	2,523	7,837	2,983	19,986	9,441	29,427



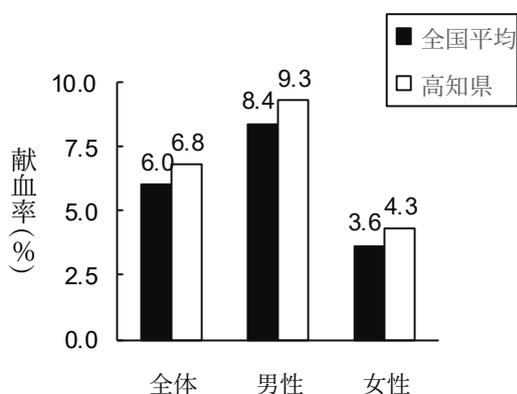
<性別構成(割合)>



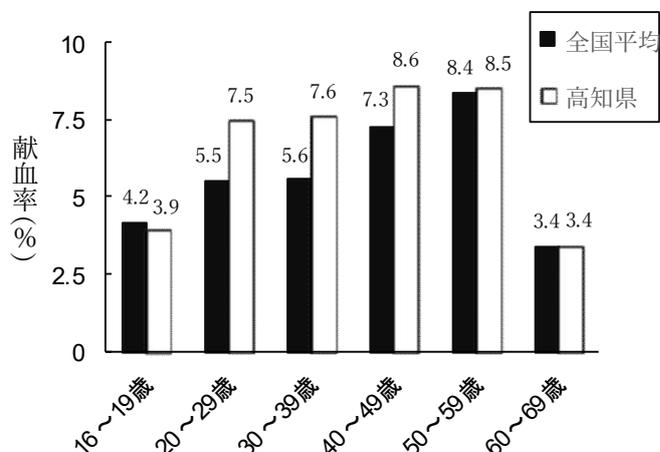
<年代別構成(割合)>

令和2年度における高知県の献血率を全国平均と比較すると、高知県の献血率は男女ともに全国平均を上回っており、また、年代別で見ると10歳代を除く年代において、全国平均と同率若しくは上回っている。

<性別献血率>



<年代別献血率>



(注1) 令和2年4月から令和3年3月の献血者による献血率は、日本赤十字社血液事業「令和2年血液事業統計資料～血液事業の現状～(令和2年4月～令和3年3月累計)」掲載データを利用

(4) 血液製剤供給量の推移

県内における血液製剤の供給状況

上段:200mL 換算本数 (下段:実本数)

年度	全血製剤	赤血球製剤	血しょう製剤	血小板製剤	合計
H23	0 (0)	46,586 (25,897)	19,428 (5,282)	52,170 (5,216)	118,184 (36,395)
H24	4 (2)	46,454 (24,428)	19,554 (5,348)	54,595 (5,501)	120,607 (35,279)
H25	0 (0)	45,093 (23,199)	22,649 (6,250)	54,085 (5,410)	121,827 (34,859)
H26	0 (0)	46,079 (23,578)	20,805 (5,743)	57,185 (5,718)	124,069 (35,039)
H27	0 (0)	42,984 (21,944)	18,320 (4,976)	58,560 (5,856)	119,864 (32,776)
H28	2 (2)	43,406 (21,997)	20,254 (5,303)	53,561 (5,358)	117,221 (32,658)
H29	0 (0)	42,123 (21,387)	15,269 (5,330)	57,460 (5,746)	114,852 (32,463)
H30	0 (0)	39,894 (20,214)	13,940 (4,893)	56,026 (5,634)	109,860 (30,741)
R元	0 (0)	40,320 (20,418)	14,321 (5,016)	49,200 (4,920)	103,841 (30,354)
R2※	0 (0)	40,182 (20,270)	13,308 (4,702)	49,470 (4,947)	102,960 (29,919)

(注) 換算本数は、400mL 由来製剤=×2、2単位=×2、5単位=×5、10単位=×10、15単位=×15、20単位=×20により算定

※令和2年度データ:全国血液センター供給本数速報(Ⅱ)令和2年4月~令和3年3月分累計より

